

令和3年度 西東京市立上向台小学校 学校評価

<p>目指す学校像・子ども像</p> <p>○「かかわり」や「つながり」の中で生きるための優しさを身に付けさせ、思いやりのある児童の現状に満足することなく、自ら心や体を鍛え、最後までやり抜く力を備えた児童</p> <p>○できないことをできるようにさせ、自信をもち、協働して課題に取り組み、粘り強く考える児童</p>			<p>学校教育目標</p> <p>人によさし【重点目標】</p> <p>自分につきさ</p> <p>生き抜くかじこさ</p>		<p>【学校経営の5つの基本方針】</p> <p>(1) 確かな学力の保障、健康な心と体力向上</p> <p>(2) 安全・安心な学校のための危機管理の徹底</p> <p>(3) 地域の中にある学校としての取組</p> <p>(4) 人権尊重と心の教育の充実</p> <p>(5) 特別支援教育の充実</p>				
<p>経営目標</p>			<p>視点及び留意点</p>		<p>成果指標</p>				
<p>中期経営目標</p>	<p>短期経営目標</p>	<p>具体的取組</p>			<p>教職員 評価基準</p>				
					<p>教職員目標値</p>	<p>児童目標値</p>	<p>保護者目標値</p>		
<p>学力・体力をつける学校</p>	児童の深い学びにつながる主体的な学びを実現する。	「めあて」と「ふりかえり」を意識し、児童自ら「見通し」をもって課題解決に向けて取り組むことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めには「めあて」を教師と児童が共有し、児童自ら課題意識をもつことができるようにする。 授業の終わりには「まとめ」「ふりかえり」を行い、次の学習につなげるようにする。 		4	十分に取組むことができた	3.2	3.2	3.2
	児童の深い学びにつながる対話的な学びを実現する。	他者（友達）との話し合いや協働的な活動を通して、比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先哲の考えと比較して考えたり、関連付けて考えたり、多面的に考えたりできるようにする。 話し合いを通して、自分の考えを文庫で整理してまとめることができるようにする。 根拠を踏まえて考えたり、分かりやすく発表したりすることができるようにする。 		3	概ね取組むことができた			
	これからの社会を生き抜く児童に対して、学習指導要領の内容を踏まえ、確かな学力、生活の基盤となる体力を確実に身に付けさせる。	朝学習や補習の時間の設定、東京ベシックドリルやeライブラリの活用を通して、児童の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 補充的な学習を充実させ、既習の内容を確実に身に付けさせる。 <2～6年> 前学年までの学習内容を身に付けている。 <1年> 年度末時点で、2学期までの学習内容を身に付けている。 		4	東京ベシックドリル平均点80点以上	3.6	3.2	3.2
	西東京市GIGAスクール構想を推進し、個別最適な学びを実現する。	1人1台タブレット端末を活用した授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた適切な活用を通して、個の学びを充実させる。 eライブラリの活用 観察・記録、ポートフォリオ作成場面での活用 話し合いや協働的な学びの場面の活用 動画編集、プレゼンテーションでの活用 		3	東京ベシックドリル平均点70点以上			
	「西東京市あったか先生」を踏まえた「わかる・ほめる体育授業」を実現する。	研究奨励事業を活用し、体育科の授業改善と活発な授業研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる、ほめる体育授業」を通して、自分の考えを安心して他者に伝え、考えを広げ深められるようにする。 <低学年>遊び方を工夫して、自分の考えを友達に伝えたり受け止めたりする。 <中学年>自分の活動の過程を写付け、考えたことを友達と伝え合い、工夫したり、試したりする。 <高学年>自己やグループの考えを写付け、自己や仲間と考えたことを他者に伝え、新たな課題を見出す。 		2	東京ベシックドリル平均点60点以上			
		<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた適切な活用を通して、個の学びを充実させる。 eライブラリの活用 観察・記録、ポートフォリオ作成場面での活用 話し合いや協働的な学びの場面の活用 動画編集、プレゼンテーションでの活用 		1	東京ベシックドリル平均点60点未満				
<p>安全・安心な学校</p>	児童が安全に、安心して通うことができ、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	未然防止を前提とした「いじめ」対応といじめ解消率100%を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 教職力が手本となり、正しい言葉遣い、思いやりのある言葉遣いを実践する。 児童の名前を「さん」を付けて呼ぶ。 児童相互が「さん」を付けて呼び合えるようにする。 よい行動はしっかりとほめ、よくない行動は心を込めて冷静に指導する。 		4	十分に意識して取り組み、成果が見られた	3.2	3.2	3.2
			<ul style="list-style-type: none"> 組織的な対応により、いじめの早期発見、早期解決に努める。 年3回のふれあい月間での事態把握、いじめ防止に関する授業を行う。 		3	概ね意識して取り組み、成果が見られた			
				<ul style="list-style-type: none"> 「新しい生活様式」に基づき、感染症対策を講じ、児童への指導を徹底する。学校管理下における、教師の見守りや、安全対策を徹底する。 <小安全対策5項目> 3つの密（密閉・密集・密着）を回避する。 新しい生活様式の取組についての指導を徹底する。 時差登校を実施し、毎朝の検温確認、健康観察を確実に行う。 「1人1台端末指導マニュアル」に基づいた指導を確実に実施する。 休み時間、下校時間等の見守りを行うとともに、下校後の消毒の徹底等、安全対策を徹底する。 		2	あまり改善することができなかった		
				<ul style="list-style-type: none"> 「新しい生活様式」に基づき、感染症対策を講じ、児童への指導を徹底する。学校管理下における、教師の見守りや、安全対策を徹底する。 <小安全対策5項目> 3つの密（密閉・密集・密着）を回避する。 新しい生活様式の取組についての指導を徹底する。 時差登校を実施し、毎朝の検温確認、健康観察を確実に行う。 「1人1台端末指導マニュアル」に基づいた指導を確実に実施する。 休み時間、下校時間等の見守りを行うとともに、下校後の消毒の徹底等、安全対策を徹底する。 		1	改善できなかった		
<p>かかわりを核とした学</p>	人や社会、自然などのかかわりやつながりを大切にしながら、豊かなコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	年間を通して「かかわり」を重視した教育活動を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な学校での指導のほか、学年便り、保護者会等を通して地域・保護者への理解、協力を得るとともに、成果や課題を共有し児童自ら進んで挨拶できるような継続的な指導を行う。 学年の発達段階に応じたコミュニケーション力育成に向けて指導する。 		4	十分に取組むことができた	3.2	3.2	3.2
			<ul style="list-style-type: none"> フレンド班活動、全校オリエンテーリング、上小まつり等の学年を越えた学び合いの機会を確保するとともに、学年の発達段階に応じたコミュニケーション力の育成に向けて指導する。 コロナ禍でも可能な異学年交流の方法を考え、実践する。 		3	概ね取組むことができた			
<p>地域ととも</p>	地域と共にある学校を目指して、地域社会と連携を深め、地域に愛される学校づくりをする。	カリキュラム・マネジメントの視点から、学級・学年単位で「地域の人・もの・こと」を効果的に活用した教育活動を展開し、社会に開かれた教育課程を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な視点から育てたい力を明確にし、単元や学習内容を編成する。 教育内容（教育活動）に有効な地域の人的・物的資源を効果的に活用する。 PDCAサイクルを意識して指導の成果を振り返り、HPや通信等で積極的に発信する。 		4	左の3項目を達成した	3.2	3.2	3.2
			<ul style="list-style-type: none"> 情報発信を積極的に行い、保護者が通信機器を通して学校の様子を理解できるようにする。 		3	左の2項目を達成した			
<p>働き方改革</p>	勤務時間管理と勤務時間・健康管理を意識した働き方を推進する。	業務内容の精選及び組織的・効率的な業務の選定を行うことで、在校時間が53時間を超えないようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌、学年・学級事務、行事等における業務の精選、効率化を図る。 各主任の自覚と責任のもと組織力を結集させる。 週1回定期運動日を設定する。 勤怠システムを活用し自己の働き方を振り返る。 		4	ホームページでの情報提供を月に1回以上実施	3.6	3.2	3.2
			<ul style="list-style-type: none"> 週の在校時間が53時間を超えないようにする。（年2回調査期間を規定） 担当する校務分掌、学年・学級事務及び行事等において、優先順位を明確にするとともに、業務内容や取組方法について2つ以上改善を図る。（職層を意識したそれぞれの立場から） 会議の精選や時間の厳守、校務支援システムを活用した情報共有の効率化を図る。 		3	ホームページでの情報提供を月に2回実施			
			<ul style="list-style-type: none"> 学校の便り、日々の教育活動、児童の様子について、週に1回以上ホームページに掲載する。 		2	ホームページでの情報提供を月に1回実施			
			<ul style="list-style-type: none"> 学校の便り、日々の教育活動、児童の様子について、週に1回以上ホームページに掲載する。 		1	ホームページでの情報提供を月に1回未満実施			
			<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌、学年・学級事務、行事等における業務の精選、効率化を図る。 各主任の自覚と責任のもと組織力を結集させる。 週1回定期運動日を設定する。 勤怠システムを活用し自己の働き方を振り返る。 		2	業務内容や取組方法について3つ以上改善した			
			<ul style="list-style-type: none"> 週の在校時間が53時間を超えないようにする。（年2回調査期間を規定） 担当する校務分掌、学年・学級事務及び行事等において、優先順位を明確にするとともに、業務内容や取組方法について2つ以上改善を図る。（職層を意識したそれぞれの立場から） 会議の精選や時間の厳守、校務支援システムを活用した情報共有の効率化を図る。 		1	業務内容や取組方法について2つ改善した			
			<ul style="list-style-type: none"> 学校の便り、日々の教育活動、児童の様子について、週に1回以上ホームページに掲載する。 		1	業務内容や取組方法について1つ改善した			
			<ul style="list-style-type: none"> 学校の便り、日々の教育活動、児童の様子について、週に1回以上ホームページに掲載する。 		1	改善できなかった			